

# 学校だより

横浜市情報ネットワーク（YYネット）上に本校のホームページがあります。

URL : <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

横浜市立十日市場小学校

令和8年5月29日（金）

緑区十日市場町 1392-1 番地

TEL : 981-0420

FAX : 983-1694

## 楽しみながら、力を伸ばす

学校長 熊谷 潤平

もとより5月5日をもって暦の上では夏なのではありますが、今の日本は、5月は初夏ではなく盛夏と言えます。連日、校庭上の気温は30度を超えています。そんな5月でしたが、つい先日は、暑さにも負けず、1年生は新治里山公園へ、2年生は玄海田公園へ、6年生は日光へとそれぞれ出向き、たくさんのすてきな思い出を持ち帰ってきました。

日光では、6年生、いい顔していたなあ…なんて思い出しながら、朝、正門で立っていると、「校長先生、リーフレット、できたよ！」と、笑顔で声を掛けてくれたのは3年生。その顔は、力作が完成したうれしさと充実感にあふれていました。「そう！がんばったね。今度、見せてね。」と返す私の心もうれしくなりました。

なぜ、3年生が私に声を掛けてくれたかということ、先日3年生の教室で、私が国語の授業をしたからです。職員から、「子どもたちの思い・意向を生かしつつ、指導すべきことはきちんと指導する学習計画を、どのように作っていけばよいのが難しい。」という声が複数挙がったので、「私だったらこんな風にするよ。」という授業を例示しました。

授業の形をとりながら、指導内容を意識せず、単に子どもが楽しくなるような活動にするのは、それほど難しいことはありません。でも、このような授業は「活動あって学びなし」と昔から言われています。

対して、指導内容を授業時間にぎゅうぎゅうに詰め込み、子どもの興味・関心は無視した授業では、「やらせ、強制の授業」であり、子どもたちに、「学習とはおもしろくないもの、つまらないもの、苦しいもの」という認識を与えてしまいます。文科省が推奨してきた、アクティブ・ラーニング、主体的、対話的で深い学び、令和の日本型学校教育とは、ほど遠い授業と言えましょう。

今回、教科書教材「こまを楽しむ」を読んでリーフレットを作る、という学習計画を立てたわけですが、子どもと計画を立てるに当たり、私が意識したことは、

- ①一見、子どもの興味・関心から離れている教科書教材を、様々な仕掛け（こま回しの実演、好きな遊びのインタビューなど）を通して、子どもに引き寄せること。
- ②例えば、「教科書だけでなく図鑑やインターネットなどでも、もっとたくさんのこまについて調べたい」などという子どもたちの思いを受け入れ、学習計画に組み込むこと。
- ③リーフレットを書くことを通して、「教材文全体の段落構成（始め・中・終わり）を捉える力」「文章中の大事な言葉を見抜き、簡単な要約をする力」「『私の一おしのこま』という視点で、感想をもつ力」を付けること。
- ④言語活動の出口を、リーフレットに限定せず、パンフレット（冊子）風、新聞風、広告風、でもいいことにし、活動の選択肢を増やしたこと。

などです。

さて、このような指導で本当に力が付いたのか？と問われたら、もちろん！と即答したいところではありますが、完成した全員の作品を精査したり、もう少し長い期間で子どもたちの読む力を見取ったりする必要があります。…それでも…です。手前味噌ですが、子どもたちは実に熱心に教材文に向き合い、集中してリーフレットを作りました。まさに、主体的。

5月30日は土曜参観です。果たして、保護者の皆様の厳しい（！？）目の前で、子どもたちにとって「楽しく、力が付く」授業が展開できるのか。なかなか簡単なことではありません。

でも、挑戦。絶えず、挑戦。厳しい御意見も糧としながら、職員一同、授業力向上に努めていきたいと思っております。

